

だっこだっこあみだっこ

ぼく・わたしを育てるほとけのことば
歓喜（かんぎ）—うれしいことはすなおに表現しよう—



平成 29 年

花まつり こども奉納会レポート

菜園日記

5.6月号

くらしの歳時記 蛍のひかりと日本

東山浄苑東本願寺発！ママと子どものフリーペーパー **だっこだっこあみだっこ**です♪
あみださまは、おかあさんの「だっこ」のように、あたたかくわたしたちをみまもって下さっている—
そのことに気づいたとき、わたしたちは安心して、自信をもって生きていけます。

未来をになう子どもたちは社会の宝もの。その子どもを育てる子育ては、とても尊い大事な
ことです。いい子になってほしい、と思いながらも、ほんとうのやさしさ、かしこ
さ、強さってなんだろう？ —ほとけさまのみ教えが、悩めるパパ、ママのともしびになり
ますように。ぜひ、ご家族みなさんでお読みください♪

FREE Paper

ぼく・わたしを育てる ほとけのことば

今月のことば：「**歓喜(かんぎ)** —うれしいことはすなおに表現しよう—」

仏教には、今のわたしたちにとって、あたたかなともしびとなることばがたくさんあります。

「ほとけのことば」から、わたしたちの日々のくらしの目標をかんがえてみましょう♪

「歓喜(かんぎ)の歌」

今回のテーマは「歓喜」です。仏教語では「かんぎ」と読み、ほとけさまのみ教えをきいて、信心をいただいた時にわきおこるよろこびのことを言います。

「かんぎ」という読みのほうを知っているかもしれませんね。年末になると、オーケストラ・合唱で、ベートーヴェンの第九(だいく/交響曲第九番)の第4楽章、「歓喜(かんぎ)の歌」が公演されます。

第九の第4楽章は、強烈な不協和音(ふきょうわおん)で始まり、それに対して「こんな音ではない!」とチェロとコントラバスが低い音で否定します。

その後、第1楽章のメロディがくり返されますが、それも否定、第2楽章、第3楽章のメロディも否定され、そしてようやく、チェロとコントラバスが、あの有名な「歓喜の歌」(♪ミミファソ ソファミレ…)のメロディを奏で始め、「これだ、この音楽だ!」という感じで、次々にほかの楽器も演奏に加わって行くのです。

その後、もう一度はじめの不協和音に戻り、合唱団が立ち上がります。



バリトン歌手が、「おお友よ、このような音楽ではない! もっと心地よいものを歌おうじゃないか。もっとよろこびにあふれたものを!」と歌います。

それをうけて、一斉に「歓喜の歌」(♪ミミファソ ソファミレ…)の合唱が始まる— 壮大で、よろこびに満ちた、音楽のはじまりです。



「お誕生日おめでとう」

よろこばしい日、といえば、いちばんに思いうかぶのはお誕生日でしょうか?

私たちは、生まれた日をお誕生日として、家族やともだちから「お誕生日おめでとう!」とお祝いしてもらいます。ハッピーバースデーと歌ってもらい、年の数のろうそくを吹き消し、プレゼントももらって、とてもうれしい日です。



お母さん、お父さんは「生まれてくれてありがとう」、そして私たちは、お母さん、お父さんに「生んでくれてありがとう、育ててくれてありがとう」と言う—。たくさんの「おめでとう」と「ありがとう」にあふれる日、それがお誕生日ですね。

「花まつり」お釈迦さまのご誕生

仏教を開かれたお釈迦(しゃか)さまのお誕生日は、4月8日です。これをお祝いして、あちこちのお寺では、花まつりという法要をおつとめします。

東山浄苑東本願寺では、お稚児(ちご)さんが、白象や誕生仏(たんじょうぶつ)といっしょに苑内をねり歩き、本堂で法要にお参りします。さらに、子どもたちがお坊さんといっしょに法要をおつとめする「こども奉納会(ほうのうえ)」も行われました。

お釈迦さまはなんのためにこの世に生まれて下さったのでしょうか？ 生まれてすぐに7歩あるかれたお釈迦さまは、「天上天下唯我独尊(てんじょうてんげゆいがどくそん)」とおっしゃられました。これは、「われ、まさに世において無上尊(むじょうそん)となるべし」、すなわち「わたしはこの世で無上の仏となり、人々を救う道をあきらかにしよう」という意味です。

人々を救う道・仏法をあきらかにするために、仏となるために生まれたのだ、という宣言です。



なんのためにうまれたの？なにをしてよろこぶ？

浄土真宗を開かれた親鸞(しんらん)さまは、「歓喜」の「歓」はからだをよろこばせること、「喜」はこころをよろこばせることで、信心をえて極楽浄土(ごくらくじょうど)に往生(おうじょう)できることがきまったそのとき、こころもからだもよろこびにつつまれることが「歓喜」だ、とおっしゃられました。阿弥陀(あみだ)さまがわたしたちを一人もらさず必ず救うと誓って下さり、つねにその光でおさめとって下さる。そのことを知ったとき、ありがたさともったいなさで、からだがふるえるようなよろこびを感じる。それは、今までの世界がひっくり返るようなよろこびです。

第九「歓喜の歌」をつくった当時、ベートーヴェンはすでに耳が聞こえなくなっていました。それでも、「こんな音じゃない、こんな音じゃない…もっとよろこびにあふれた音楽を！」と求め続けて、この音楽にであった—そんなからだもこころもふるえるようなよろこびを、音楽で表現したのでしょうか。

そのために生まれてきた、といえるようなよろこび。私たちにとっては何でしょうか？ これから長い人生の中で、いろいろな人にであい、いろいろなことを学び、いろいろな体験をして、こころもからだもよろこぶ、生まれてきた意味を知ると思います。なんだかおもしろい…と思うかもしれません。まずは、毎日の暮らしのなかで、「うれしい！」「ありがとう！」と感じたとき、すなおにからだどこころいっぱいでもよろこびましょう。

じぶんのうれしいきもち、感謝のきもちをすなおに表現すること、伝えること。このくりかえしの先に、私たちのからだもこころもよろこぶ、うまれた意味があるのではないのでしょうか。



菜園日記



—土に親しもう！—

東山浄苑東本願寺には、親子で野菜の種まき・収穫体験ができる(※)菜園があるのを知っていますか？その名も「あみだっこ菜園」です♪

(※) 毎月第3日曜日に開催している親子向けイベント「親子仏法の集い」。詳しくは最後のページに！

3月の活動では、土づくりとシシトウの種まきを行いました。

カップの底に石を入れて・・・

種が寒くないよう
に、やさしく土を
かけてあげたよ



みんなで、はい、チーズ★

5月活動は、サトイモ・シシトウの植え付け、シソの種まき
6月活動は、にんにくの収穫を予定をしています！
お楽しみに★



だっこだっこあみだっこは、毎月東山浄苑東本願寺で開催している「親子仏法の集い」の活動内容をもとに編集しています♪

親子仏法の集い -仏法に親もう 土に親もう!- ってなあに？

毎月第3日曜日(行事等で変更の場合あり)に、東山浄苑東本願寺の菜園で行っている親子向けの活動。なんでもありがたくいただいて、粗末にしないー古きよき日本人を育てた仏教の教えです。家族で野菜づくりや年中行事に親しみ、「いただきます」「ありがとう」の豊かなところを育てましょう。乳幼児から中学生までのお子さんご家族はどなたでも参加できます。お気軽にお尋ねください！



【活動日】 毎月第3日曜日 ・年中行事の折には変更 【場所】 東山浄苑東本願寺

※ベビールーム完備 ※屋内無料駐車場完備 ※参加ご家族30組限定

★お問合せ・参加のお申込みは★
東山浄苑東本願寺 総合受付

電話 **075-541-8391** 毎日 9:00 ~ 17:00



—参加者募集中！今後の親子仏法の集いご案内—

5月21日(日)

10:00~12:00

【5月のことばと目標】

あん じん
安心

—ほんとうの「やすらぎ」ってなんだろう？—

【活動内容】

さといも・シシトウの植付け
シソの種まき



6月18日(日)

10:00~12:00

【6月のことばと目標】

む じょう
無常

—「ずっとおなじ」ものなんてない—

【活動内容】

にんにくの収穫



【場 所】 東山浄苑東本願寺内 あみだっこ菜園 など

【参加費】 1家族 1回 1,000円

※参加ご希望の方は事前にお電話でお申込みください。

※野菜の生育状況などによって、活動内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

※雨天の場合は、扇子づくりなど室内企画を行います！お楽しみに♪



だっこだっこあみだっこ 平成29年5・6月号

平成29年5月10日発行 発行・印刷/東山浄苑東本願寺 〒607-8461 京都市山科区上花山旭山町8-1 電話 075-541-8391

無料